

「加賀立国 1200 年」を契機とした地域の歴史 P R と学びの場創出

指導教員	金沢学院大学 講師 戸根 比呂子							
参加学生	知田 真幸	川崎 舞夕	今井 咲良	大森 公太				
	絹川 史香	小堀 真依	坂下 愛加梨	高巢 瑠海				
	得田 航生	半間 結	松島 亮太	向井 新				
	輪湖 幸太	青木 宥佳	草間 智輝	小杉 恵生				
	塩井 悠仁	首藤 祥希	谷井 芹風	田村 望咲				
	田村 庸祐	土肥 駿亮	鳥越 真由	中谷 幸奈				
	又多 隆介	宮村 杏菜	山谷 一	横井 里奈				
	小倉 謙	大江 寧音						

活動にご参加、ご協力くださいました「加賀立国 1200 年遺跡魅力発信委員会」
「国府校下地域協議会」のみなさまに感謝申し上げます。

「加賀立国1200年」を契機とした地域の歴史PRと学びの場創出

(金沢学院大学戸根ゼミ 連携団体：小松市)

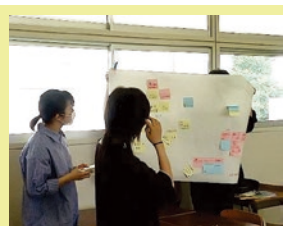
活動目的

小松市では古代加賀立国1200年となる2023年を機に、隣接する能美市とともに、歴史文化の普及啓発を進めてきた。地域住民も、「加賀立国1200年遺跡魅力発信委員会」を結成し、地域歴史のPR活動を行ってきた。

そこで金沢学院大学の考古ゼミも活動に参加することで、地域の歴史をより積極的に発信することにした。特に、加賀立国の前時代にあたる古墳時代に注目し、小松・能美に広がる一大古墳群を、古代のにぎわいの場を育んだ遺跡ととらえ、古墳群を中心に活動を行うこととした。2023年度は河田山9号墳の平面図作成と活用策の提案を行いつつ、これらの古墳群の情報発信を行った。

活動①

～小松・能美の古墳活用策提案～



第1図 打ち合わせの様子

【活動内容】

小松・能美の古墳群の活用策について180の案を出し、その中から新規性・実現可能性が高いと考えたものをさらにブラッシュアップして、4案にまとめた。また、実現に向けての参考とするため、地域住民によるアンケートを実施した。

【提案した活用策とアンケートの投票結果】

下記のとおり、D案、A案の順に票が多く集まった。

A案：古墳カード集め in 南加賀 … 99票

南加賀の古墳の説明を入れた古墳カードを、古墳を見学した人に集めてもらう。

B案：#こふん #オブジェ … 60票

古墳に「映えスポット」となるオブジェを設置する。

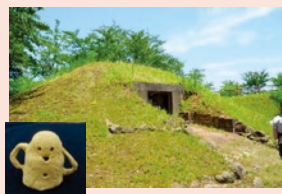
C案：古墳巡り紹介誌「KOFUN」… 54票

河田山古墳群・能美古墳群のおすすめスポットを紹介する旅行誌風のカジュアルなパンフレットを作成する。

D案：埴輪でライトアップ

… 154票

地元の小学生などに、粘土を使った埴輪作りを体験してもらい、その埴輪を古墳に配置し、ライトアップを行う。



第2図 古墳の現状と埴輪のサンプル

活動②

～河田山9号墳の平面図作成～

【活動内容】

9号墳は約3分の1が調査済みであったが、造成工事後の残存状況が不明であったことと、史跡として活用するための基礎データを得るため、改めて調査を行った。主な作業として、平板測量(※)と発掘調査を行った。

また、地元企業(株式会社地域みらい)の協力を得て、最新機器を使った測量方法の講習を受けた。

※専用の機器を用いて等高線を描き、遺跡等の地形を記録する測量方法。



第3図 測量調査の様子



第4図 発掘調査の様子



第5図 河田山9号墳の測量図
(製図：宮村)

【成果】

平板測量の結果、標高43.0～47.0mに位置する古墳であることを確認した。また、墳丘の清掃により、石室石材を確認し、埋葬施設が横穴式石室である可能性が高いと判断できた。さらに発掘調査により周溝の一部を再確認した。1辺約13mの方墳であること、一部、消滅した可能性があった9号墳の全形が保存されていることを確認できた。

まとめ

・小松・能美市域の古墳活用策のアンケート調査より、古墳群の周知を図ると共に、活用の方策について、地域住民の意見を踏まえてまとめることができた。
・現地説明会の実施、学園祭や資料館でのパネル展示、新聞社による活動状況の報道により、古墳群や地域の取り組みとして、広く周知した。
・河田山古墳群の測量調査による9号墳の現況把握など、今後の活用策の検討に耐える、学術的な調査データを提供した。

来年度の計画

・測量等調査の実施、報告書の刊行、現地説明会の実施、これらを踏まえた活用案の提案等を通し、地域住民が古墳群を知る仕掛け作りを継続的に行う。
・アンケート結果を参考に、古墳群活用策の実現を目指した具体的な提案を行う。

【参加学生】 知田真幸(修士2年)・川崎舞夕(修士1年)・今井咲良・大森公太・網川史香・小堀真依・坂下愛加梨・高巢瑠海・得田航生・半間結・松島亮太・向井新・輪湖幸太(以上学部4年)・青木宥佳・草間智輝・小杉恵生・塩井悠仁・首藤祥希・谷井芹風・田村望咲・田村庸祐・土肥駿亮・鳥越真由・中谷幸奈・又多隆介・宮村杏菜・山谷一水・横井里奈(以上学部3年)・小倉謙・大江寧音(以上学部2年) 以上30名

1. 活動の要約

本事業では小松市・能美市に所在する古墳を題材に、地域の歴史PRのための活動を行った。まず、河田山・河田向山古墳群の歴史的環境、調査・保存の意義を整理し、昨年度成果も踏まえた上で、活用策を提案した。また、小松市指定史跡である河田山9号墳の平板測量及び発掘調査を実施し、加賀国府の地盤となった河田山古墳群の基礎データを作成した。成果は「加賀国府ものがたり館」開館に合わせて公開したほか、パネル展やゼミのX（旧 Twitter）等を通じて情報発信した。



図1 主な活動場所

2. 活動の目的

小松市では加賀立国 1200 年となる 2023 年を機に、能美市とともに、関連する歴史文化の普及啓発を進めてきた。そして地域住民からも協力を得て、「加賀立国 1200 年遺跡魅力発信委員会」を結成し、地域の歴史をPRするための活動を行ってきた。

そこに、金沢学院大学の考古学ゼミも活動に参加することで、地域の歴史をより積極的に発信していくこととなった。特に加賀立国の前時代にあたる古墳時代に注目し、小松・能美に広がる一大古墳群を、古代のにぎわいの場を育んだ遺跡と捉え、古墳群を中心とした活動を行うこととした。2023 年度は河田山9号墳の平面図作成と活用策の提案を行いつつ、これらの古墳群の情報発信を行った。

3. 活動の内容

今年度は事業2年目であるが、中心となる3年生のメンバーにとっては活動初年度となることから、市内の古墳群の魅力や特徴を探ることから始めた。その成果として、小松・能美市域に広がる古墳の活用策提案を行った。また、古墳活用のための基礎データ作成のため、河田山9号墳の測量調査・発掘調査を行い、その成果をパネル展により報告した。

①小松・能美の古墳活用策提案（5～12月）

小松・能美市内の古墳群について、発掘調査報告書や出土品に関連する論文を熟読し、グループでの討議や発表を行った。さらに古墳群や施設の見学（6/10）により、古墳の立地や現地の状況を感じ、理解を深めた。見学に当たっては、小松・能美市の担当者より説明いただいた。

以上を踏まえ、小松・能美の古墳活用策の提案を行い、さらに実現に向けて、地域住民等によるアンケート調査を実施し、活用のために地域から求められていることを探った（10/14～12/26）。

アンケート調査実施に際しては、小松市加賀国府ものがたり館、能美市ふるさとミュージアムにおいて、投票用パネルを設置するスペースの提供を受けた。

②河田山9号墳の平板測量調査・発掘調査の実施（6～7月）

河田山古墳群は団地造成に伴い、1986～87年に小松市が発掘調査を行っている。このうち1・9・12号墳は現地保存し、2022



図2 古墳活用策の検討の様子

年に小松市指定史跡となった。今回調査した9号墳は、上記調査の際に約3分の1について発掘調査を行っていたが、造成工事後の残存状況が不明であったこと、9号墳全体の測量調査が未実施であったことから、史跡として活用するための基礎データを得るため、改めて調査を行った。平板測量・発掘調査は、考古学の学びを活かしたフィールドワークとして、主に学生と小松市職員が作業を行った（6/17・24、7/2・15～17）。

調査にあたっては、小松市より、地域住民・関連部局（文化振興課・緑化公園課）との連絡調整、休憩や道具置場の提供（加賀国府ものがたり館、手洗いあり）、関連遺跡報告書・測量データの提供等を得た。また地元企業（株式会社地域みらい）の協力を得て、最新機器を使用した測量方法や、測量成果を用いた遺跡の活用方法について学ぶことができた。

③活動を通した古墳群の周知（随時）

国府校下地域協議会の協力を得て、昨年度に続き、加賀立国1200年ウォークラリーの係員として参加し、活動の周知を図った（10/29）。また、昨年度の活動報告を兼ねて、河田向山古墳群の現地見学会を実施した（11/3）。

これらの活動状況は、本学学園祭、加賀国府ものがたり館、能美ふるさとミュージアムでパネル展示を行い、ゼミのSNS（X：旧Twitter）でも情報発信をしたほか、随時、新聞報道等で取り上げてもらった。

4. 活動の成果

＜活動結果のまとめ＞

- ・パネル展示やSNSでの情報発信、新聞報道等により、各方面からの周知活動を進めることで、「加賀立国1200年」となる2023年度の各種イベントを盛り上げるPRにつながった。
- ・河田山9号墳の現地測量・発掘調査の実施、測量成果の刊行により、今後の活用や学術的検討に耐える成果を提供することができた。
- ・古墳群の活用策提案とアンケート実施を通し、地域住民の意向を数値化して示すことができた。
- ・考古学を専攻する学生が、実際の遺跡でのフィールドワークを行い、それが地域に還元され、役立ったことを実感する、得難い機会となった。

＜事業の成果＞

①小松・能美の古墳活用策提案

大小を問わなければ、14名で約180の案を出し、その中で新規性・実現可能性が高いと考えたものをさらにブラッシュアップし、下記の4案に整理した。

A案 古墳カード集め in 南加賀

B案 #こふん #オブジェ

C案 古墳巡り紹介誌「KOFUN」

D案 墳輪でライトアップ



図3 河田山古墳の測量の様子



図4 河田山古墳の発掘調査の様子



図5 地元企業による講習の様子



図6 現地説明会の様子

さらに今後、実現に向けての参考とするため、地域住民によるアンケート調査を実施した。その結果、A 案 99 票、B 案 60 票、C 案 54 票、D 案 154 票（総投票数 367 票）となり、地域住民が古墳に興味を持ち、現地へ来て活用するきっかけとなる計画は何かを数量的に示すことができた。

②河田山9号墳の平板測量調査・発掘調査

測量調査からは、標高 43.000～47.000m に位置する古墳であることを確認した。またこれに先立って行った墳丘の清掃により、石室の一部と見られる石材を確認し、墳丘の軸方向に合うことから、9 号墳の埋葬施設が横穴式石室である可能性が高いと判断できた。さらに発掘調査により周溝の一部を再確認した。これらの成果を踏まえて過去の測量図との合成作業を行い(第 4 図)、1 辺約 13m の方墳であることを確認するとともに、一部、消滅した可能性があった 9 号墳の全形が現地にて保存されていることを確認できた。今後、古墳の東・北辺を調査することにより、古墳のより正確な規模・範囲を求めることが可能である。



図7 古墳活用策提案のパネル



図8 河田山9号墳調査成果の速報パネル

なお、調査成果は、下記③のとおり速報展を実施したほか、現在、測量や活動成果の報告書を作成中である。

③活動を通じた古墳群の周知

本学学園祭、加賀国府ものがたり館、能美ふるさとミュージアムにおいて、河田山 9 号墳の調査成果をパネル展示により報告した。また、2022 年度事業で調査を行った河田向山古墳群に関しても、現地説明会の開催という形で、地域住民に対し事業成果を報告することができた。なお、現地説明会には約 30 名の参加があった。

測量調査や、これらの産官学連携の取り組み状況については、新聞でも取り上げてもらうことができ、地域の活動として周知することができた（計3回）。

また、国府校下地域協議会の協力を得て、加賀立国 1200 年ウォークラリーの係員として調査地の案内等を行い、活動を周知することができた。

＜貢献事項＞

- ・小松・能美市域の古墳活用策のアンケート調査により、古墳群の周知を図るとともに、活用のための方策について、地域住民の意見としてまとめることができた。
- ・現地説明会の実施、学園祭や資料館でのパネル展示、新聞社による活動状況の報道により、古墳群や地域の取り組みとして、広く周知した。
- ・河田山古墳群の測量調査による9号墳の現況把握など、今後の活用策の検討に耐える、学術的な調査データを提供した。

5. 今後の活動計画

上記のとおり、遺跡の現地での活動は、学生の学びの場としても、地域の歴史 PR の観点からも、効果的であることを確認できたことから、次年度以降も継続していきたい。

具体的には、河田山古墳群及び河田山 1・9 号墳の測量調査、範囲内容等確認のための発掘調査をさらに進めていく。調査成果は、当初計画のとおり、現地説明会での公開や、調査報告書としての刊行、これらを踏まえた活用案の提案等を通し、地域住民が古墳群を知るきっかけとなるような仕掛けづくりを継続的に行う。

また、今年度は遺跡の活用策を提案するにとどまらず、提案に対して地域住民によるアンケート調査を実施することができた。回答は 367 票に及び、また、回答者の世代も多岐に渡るなど、地域住民の意識や期待を知ることもできた。来年度は、アンケート結果を参考に、いずれかを自分たちで実現することを目標としたい。

さらに、加賀立国 1200 年ウォークラリーのような地元主導のイベントにも参加・協力し、学生・行政・地域の個々の活動を有機的につなげ、展開できるよう取り組んでいきたい。

6. 活動に対する地域からの評価

小松市担当者より、下記のとおり評価をいただいた。

今年は活動 2 年目の年で「加賀立国 1200 年」を迎え、古墳調査や古墳活用策提案、さらには地元イベントであるウォークラリーへの参加等、積極的な活動によって記念年を大いに盛り上げていただいたことを感謝している。

調査では、河田山 9 号墳の発掘調査に着手してもらい、今まで不確定だった古墳の一部を確認できたことは大きな成果で、調査と同時期の 7 月にリニューアルオープンした資料館（加賀国府ものがたり館）の大きなアピールにもなった。また、昨年測量調査した河田山古墳群では現地説明会を開き、市民との情報交換の場をつくっていただき、今後の活動を考えるよい機会になったと感じている。

古墳の活用策提案については、昨年度の提案を参考にしつつ、より具体的で実現可能な企画案を考えてもらった。市民からのアンケートは、パネルへのシール貼りという形式にして気軽に参加できたことは効果的で、幅広い年代のみなさんからたくさんの意見をいただけたと思う。

加賀立国 1200 年という大きな節目は終わったが、これまでの取り組みを一過性のものにせず、今後も北陸新幹線小松開業に伴うさらなる南加賀地域の歴史 PR のため、市をまたいだ広域連携を継続していきたいと考えている。その原動力としてぜひ学生の提案や古墳調査成果を活用し、老若男女問わない楽しい学びの機会を広げていきたい。